社会福祉法人　阿闍羅会

令和３年度　事業報告書

（令和４年５月１８日）

青森県認証

障害福祉サービス事業所

〈　目　次　〉

１　法人・施設経営　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
（１）理事会・評議員会
（２）役員及び評議員の退任と選任
（３）新規事業
（４）職員行動目標に関する報告
（５）自己評価
（６）総合的な福利厚生
２　生活介護　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
（１）事業目的
（２）事業概要
（３）支援内容
（４）年間収入
３　就労継続支援Ｂ型　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
（１）生活支援
（２）作業支援
ア　ワークキャンパス大鰐
イ　ワークショップ大鰐
ウ　しいたけ事業（共通）
（３）工賃向上計画に関する報告
４　拠点における各事業共通の支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０
（１）保健支援
（２）余暇活動支援
５　給食　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０
（１）業務内容
（２）特別メニュー
（３）給食だよりの発行
（４）嗜好調査
（５）まとめ・反省
６　避難確保計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３１
（１）目的
（２）防災訓練計画
ア　ワークキャンパス大鰐
イ　ワークショップ大鰐
ウ　グループホームさくら
エ　グループホームこすもす
７　広報　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３４
（１）広報紙「阿闍羅」
（２）ホームページ
（３）福祉サービス広報

（４）その他の広報活動
８　会議　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
（１）連絡調整会議
（２）事業会議
（３）給食会議
（４）ケース会議
（５）グループホーム関係者会議
９　人材育成計画（研修計画）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９
（１）評価・面談
（２）求められる能力
（３）新規採用者研修
（４）研修参加（実施）等状況
１０　苦情解決　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４２
（１）ワークキャンパス大鰐
（２）ワークショップ大鰐
（３）利用者満足度調査
（４）苦情解決の仕組みをわかりやすくした掲示物と資料の作成、配布、説明
１１　地域生活支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５
（１）グループホームさくら（介護サービス包括型）
（２）グループホームこすもす（外部サービス利用型）
１２　共同受注窓口　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４６
（１）津軽地域障害者就労継続支援事業所共同受注窓口ふらわーずぶるーむ
（２）中南障害者工賃アップ協議会
１３　虐待防止委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４７
（１）実施日時
（２）虐待防止委員会委員一覧
（３）提案内容
１４　安全巡視　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４８
（１）実施日及び実施担当者
（２）実施内容
（３）令和４年度への課題
１５　地域交流　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４９
（１）地域との交流
（２）学生やボランティア等の受け入れ
（３）情報の収集と公開
（４）福祉避難所
（５）障害に関する相談窓口

１　法人・施設経営

（１）理事会・評議員会等（笹田和夫）

年月日（曜日）	事業	場所	参加者
令和３年　５月１３日（木）	監査会	ワークキャンパス大鰐 ワークショップ大鰐	監事　２名
５月１９日（水）	第１回　理事会	ワークキャンパス大鰐	理事　６名 監事　２名
６月　９日（水）	第１回　評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員７名 監事　１名
６月１６日（水）	第２回　理事会	ワークキャンパス大鰐	理事　６名 監事　２名
１０月　８日（金）	第３回　理事会	ワークキャンパス大鰐	理事　５名 監事　１名
１０月２２日（金）	第２回　評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員７名 監事　２名
１１月１７日（水）	第４回　理事会	ワークキャンパス大鰐	理事　６名 監事　２名
１２月　８日（水）	第３回　評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員５名 監事　２名
令和４年　３月１６日（水）	第５回　理事会	ワークキャンパス大鰐	理事　６名 監事　１名
３月２４日（木）	第４回　評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員５名 監事　１名

（２）役員及び評議員の退任と選任（笹田和夫）

理事（６名）、監事（２名）、評議員（７名）、評議員選任・解任委員（３名）の改選が行われ、全員が再任された。

（３）新規事業（佐藤直幸）

作業用多目的トイレの設置（株式会社アップルパワー様より寄付）

（４）職員行動目標に関する報告（白石安英）

ア　「利用者の支援」

（ア）　フェイスシート（利用者基本台帳）については３年目となり、保護者にとっても内容・書式に慣れ、春・秋の三者面談時に十分機能できる状況になった。記入内容等の正誤確認と未記入箇所の追記を行った。利用者支援の基礎として日常の利用者支援に活用することができ、記入にあたっては正確性を期し、変更等のある場合にはその都度速やかに訂正・修正を行うことができた。

（イ）　アセスメントシートについては、所見及び本人・家族の希望要望を軸として、作業内容の変化に合わせて内容（項目）の見直しを行い、生活領域と就労領域について、できるかできないかの単なる評価に留まらず、アセスメントとしてより有効活用できるように配慮する。記入については、実際の評価を行い支援と個別支援計画の基礎として活用できるように努めている。これにより情報共有とともに日々の支援の質の向上につなげることができた。

（ウ）　サービス管理責任者は、内容の確認を行うとともにケースファイルの管理を引き続き徹底し、年次毎の未整備部分について欠落のないようにしている。利用者基本台帳として有効に活用できるよう資料環境の整備・維持に努めた。

イ　「仕事面の支援」

（ア）　しいたけ栽培に関する法人一本化は、「しいたけ調整加工作業所」の新築により、当面の作業施設の整備が完了し本格的に動き出した。しいたけ作業中心の法人全体での取り組みにワークショップ大鰐の利用者・職員のスキルアップの成果が出てきている。利用者の作業内容習得と作業工程習熟に向けた支援を充実させたことにより、利用者単独での作業への取り組みの幅が広がり、利用者同士が協力して作業を進められる場面も増えてきた。また、利用者のリーダー的役割を担える人材育成については、継続した取り組みにより徐々に成果に繋げられるようになってきている。適材適所による仕事の充実感達成と工賃アップに向けた生産性の向上の取り組みを引き続き継続する。

（イ）　工賃支給方法について、工賃支給規程を改定し利用者給与表を新たに作成して取り組んでいるが、利用者にとってより働きがいのある就労を目指すため、キャリアアップ項目（作業種目毎の評価項目）について、三者面談の際に本人・保護者に説明することにより理解が得られてきている。実施３年目となったが、評価と同時に利用者本人の目標として確認できる内容にもなっているため、支援者にとっても個別支援計画に反映させるとともに支援の根拠として活用できるようになった。

ウ　「地域生活の支援」

（ア）　利用者の地域生活の基盤となるグループホームでの生活において、その生活の質の向上のため、グループホーム関係者会議を利用した世話人の研修の機会を設けることにより専門知識向上等に取り組むことができた。

　そのため、今年度もグループホーム関係者会議を定期的に開催するとともに法人内研修への参加も積極的に呼びかけている。勤務上の制約もあり全員参加は難しいが、欠席した場合の資料配布等補足的対応についても配慮した。

（イ）　グループホーム関係者会議においては、ミニ研修やグループ討議等の中で実

際に即した内容を設定し、世話人の専門知識の向上等に継続して取り組んだ。

また、世話人とケース担当者の日常的な連携を積極的に進めるとともに、サービス管理責任者やバックアップ施設の担当課長が定期的に各ホームを訪問することについては、回数的にはまだ十分とは言えないが、世話人との連携強化と必要に応じた支援・助言を心掛けた。

（ウ）　グループホームと各施設との連携推進のためには、各ケースに関する情報（支援計画や都度の支援方針・服薬管理など）の共有を図るとともに、会議・研修等に参加できない場合の資料提供等とともに日常的な課題の吸い上げにも十分配慮し対応してきた。

（エ）　各施設・グループホームは地域との連携を図るため、学校や関係機関等との取り組みを積極的に進めることとしていたが、新型コロナウイルス感染の状況もあり十分とはいえなかった。今後は、感染状況の推移も見ながら相互理解と地域での信頼構築につなげられるよう務めていきたい。

エ　「職場の環境」

（ア）　職員間の挨拶の励行、「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」の確実な実施により、風通しよい職場環境構築に務めてきた。

朝昼夕の申し送りを密に行い、ケース毎の問題だけでなく職務上の課題等も共有できるように配慮し、職員がその方向性を共通認識できるようにするとともに、職員全体で相互に協力する体制を継続することに努めた。

各施設間で作業等の課題解決に向け、職員間の共通理解と創意工夫に積極的に取り組めるようにした。作業の一本化に向けてまだ課題は多いが、よりよい職場環境の整備に努めていきたい。

（イ）　利用者・職員の状況を的確に把握し、問題発生の未然防止と問題発生時の早急な対処ができるよう管理職間の連携を密にして対応した。

特に、新型コロナウイルス感染者が発生した際は、マニュアルを基に適切に対応することができた。

また、ストレスチェックは継続して実施し、その結果から職員個々の状況を確認するとともに職場自体の抱える問題も早期に発見・対処できるように配慮して進めることができた。まだ不十分な面もあるため、改善に向け更に取り組んでいきたい。

（５）自己評価（田中大生）

ア　評価結果

（ア）分析方法	着眼点数の	７割以上	「ａ」
		７割未満４割以上	「ｂ」
		４割未満	「ｃ」

（イ）評価結果

【共通評価基準】

Ⅰ　福祉サービスの基本方針と組織

Ⅰ－１　理念・基本方針

Ⅰ－１－（１）　理念、基本方針が確立・周知されている。			自己評価結果
1	①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a

Ⅰ－２　経営状況の把握

Ⅰ－２－（１）　経営環境の変化等に適切に対応している。			自己評価結果
2	①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
3	②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a

Ⅰ－３　事業計画の策定

Ⅰ－３－（１）　中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。			自己評価結果
4	①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
5	②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
Ⅰ－３－（２）　事業計画が適切に策定されている。			自己評価結果
6	①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
7	②	事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	a

Ⅰ－４　福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

Ⅰ－４－（１）　質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。			自己評価結果
8	①	福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
9	②	評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a

Ⅱ　組織の運営管理

Ⅱ－１　管理者の責任とリーダーシップ

Ⅱ－１－（１）　管理者の責任が明確にされている。			自己評価結果
10	①	管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
11	②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
Ⅱ－１－（２）　管理者のリーダーシップが発揮されている。			自己評価結果
12	①	福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a
13	②	経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a

Ⅱ－２　福祉人材の確保・育成

Ⅱ－２－（１）　福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。			自己評価結果
14	①	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	c
15	②	総合的な人事管理が行われている。	a
Ⅱ－２－（２）　職員の就業状況に配慮がなされている。			自己評価結果
16	①	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	a

Ⅱ－２－（３）	職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		自己評価結果
17	①	職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
18	②	職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
19	③	職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a
Ⅱ－２－（４）	実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		自己評価結果
20	①	実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a

Ⅱ－３　運営の透明性の確保

Ⅱ－３－（１）	運営の透明性を確保するための取組が行われている。		自己評価結果
21	①	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
22	②	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a

Ⅱ－４　地域との交流、地域貢献

Ⅱ－４－（１）	地域との関係が適切に確保されている。		自己評価結果
23	①	利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
24	②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
Ⅱ－４－（２）	関係機関との連携が確保されている。		自己評価結果
25	①	福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
Ⅱ－４－（３）	地域の福祉向上のための取組を行っている。		自己評価結果
26	①	福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。	a
27	②	地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	c

Ⅲ　適切な福祉サービスの実施

Ⅲ－１　利用者本位の福祉サービス

Ⅲ－１－（１）	利用者を尊重する姿勢が明示されている。		自己評価結果
28	①	利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
29	②	利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	a
Ⅲ－１－（２）	福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		自己評価結果
30	①	利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	a
31	②	福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	b
32	③	福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	b
Ⅲ－１－（３）	利用者満足の向上に努めている。		自己評価結果
33	①	利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a

Ⅲ－１－（４）　利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。			自己評価結果
34	①	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
35	②	利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a
36	③	利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
Ⅲ－１－（５）　安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。			自己評価結果
37	①	安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
38	②	感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
39	③	災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	b

Ⅲ－２　福祉サービスの質の確保

Ⅲ－２－（１）　提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。			自己評価結果
40	①	提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	a
41	②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
Ⅲ－２－（２）　適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。			自己評価結果
42	①	アセスメントにもとづく個別支援計画を適切に策定している。	a
43	②	定期的に個別支援計画の評価・見直しを行っている。	a
Ⅲ－２－（３）　福祉サービス実施の記録が適切に行われている。			自己評価結果
44	①	利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化さている。	a
45	②	利用者に関する記録の管理体制が確立している。	b

【内容評価基準】

A－1　利用者の尊重と権利擁護

A－1－（1）　自己決定の尊重			自己評価結果
A①	①	利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	a
A－1－（2）　権利侵害の防止等			自己評価結果
A②	①	利用者の権利侵害の防止等に関する取組が徹底されている。	a

A－2　生活支援

A－2－（1）　支援の基本			自己評価結果
A③	①	利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	a
A④	②	利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	a
A⑤	③	利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている。	a
A⑥	④	個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。	a
A⑦	⑤	利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。	a
A－2－（2）　日常的な生活支援			自己評価結果
A⑧	①	個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。	a

A－2－（3）　生活環境			自己評価結果
A⑨	①	利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	a
A－2－（4）　機能訓練・生活訓練			自己評価結果
A⑩	①	利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。	a
A－2－（5）　健康管理・医療的な支援			自己評価結果
A⑪	①	利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	a
A⑫	②	医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	a
A－2－（6）　社会参加、学習支援			自己評価結果
A⑬	①	利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	a
A－2－（7）　地域生活への移行と地域生活の支援			自己評価結果
A⑭	①	利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	a
A－2－（8）　家族等との連携・交流と家族支援			自己評価結果
A⑮	①	利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	a

A－4　就労支援

A－4－（1）　就労支援			自己評価結果
A⑰	①	利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	a
A⑱	②	利用者に応じて適切な仕事内容等となるような取組と配慮を行っている。	a
A⑲	③	職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。	a

イ　分析

（ア）共通評価基準

Ⅰ　福祉サービスの基本方針と組織

平成３１年度事業計画により「理念・基本方針」を、明文化し周知され、さらに、わかりやすく説明された資料の作成と利用者や保護者への周知を図り、「項目Ⅰ　福祉サービスの基本方針と組織」が全て「ａ」評価となる。また、評価の着眼点においての全ての項目に該当。令和３年度も継続。

Ⅱ　組織の運営管理

Ⅱ－１「管理者の責任とリーダーシップ」は全て「ａ」評価である。令和２年度において全ての評価の着眼点に該当した。令和３年度も継続。

Ⅱ－２「福祉人材の確保・育成」については、脆弱な点がある。番号１４「必要な福祉人材の確保・定着に関する具体的な計画が確立し、取り組みが実施されている。」の評価が「ｃ」である。福祉人材に関する基本的な考え方や方針は作成しているが、**必要な福祉人材や人員体制について確保・定着・育成に関する具体的な計画とその取り組みの実施**が令和３年度事業計画に於いて計画されているが、実施途中である。令和４年度も引き続き取り組みたい。

番号１６「職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。」は、令和３年度より希望聴取した福利厚生を実施した事により、**評価結果がｂ→ａ**になった。**令和４年度も職員にアンケートによる福利厚生の希望を聴取**したい。

番号２０「実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取り組みをしている。」では、社会福祉士実習指導者講習を修了したことにより、評価の着眼点全てに該当したため、**評価結果ｂ→ａ**になった。

Ⅱ－３「運営の透明性の確保」については、取り組みはされているが、その情報公開が不足していたため、令和３年度の事業計画に於いて社会福祉法人は地域に必要とされる組織でなくてはならないということを明記し、法人の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人の存在意義や役割を明確にするよう努めたことにより、**番号２１の評価結果がｃ→ｂ**になった。

Ⅱ－４「地域との交流、地域貢献」は、令和２年度からの取り組みもあり、全体的に良い評価となっている。この項目に於ける今後重要となるキーワードは「福祉ニーズの把握」である。**民生・児童委員との会議の開催やアンケート調査などを通じ、具体的な地域の福祉ニーズを把握**し、それをふまえ事業や活動に活かすことができるよう事業の計画を策定することが求められる。令和３年度は福祉ニーズ把握することを計画したが、新型コロナウイルスの影響があり、計画どおり実施することができなかった。令和４年度も同計画を継続する。また、把握したニーズは、地域共生社会の実現のための新たな事業として、社会福祉法に基づき２０２１年４月より実施された「重層的支援体制整備事業」に、当法人として参画するための着想としたい。

Ⅲ　適切な福祉サービスの実施

Ⅲ－１「利用者本位の福祉サービス」については、わかりやすい版「苦情可決の仕組み」のリーフレットを作成し、配布掲示したことにより、**番号３４**「苦情解決の仕組みが確立しており、周知。機能している。」の**評価結果がｃ→ｂ**になった。令和４年度にはさらに評価を上げるため、**利用者（保護者）からの相談を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討、フィードバックや公表の方法等のマニュアルを整備**したい。また、**番号３９**「災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。」は令和３年度、避難確保計画に基づき防災訓練（移動訓練）を行った。**（評価結果ｃ→ｂ）**また、災害時のＢＣＰ（事業継続計画）作成が令和６年から義務化されることをふまえ、**令和４年度から当法人各事業におけるＢＣＰの作成に着手**したい。

Ⅲ－２「福祉サービスの質の確保」は番号４５を除き、全て「ａ」評価である。残っている課題も、個人情報保護方針の再確認と見直し、その職員研修の実施であり、令和３年度中に実施する。令和４年度の自己評価時には、これら全ての評価の着眼点に該当することとなる。

（イ）内容評価基準

令和２年度から、対象外や該当しないなどの項目を見直した。このことにより当評価基準の全項目が「ａ」評価となっている。また、令和３年度評価に於いて新たに評価の着眼点２個所に該当した。今後も継続したい。

残る評価の着眼点は、Ａ②ア**「権利侵害の防止等のために具体的な内容・事例を収集・提示して利用者に周知」**のため、令和４年度に取り組みたい。

（ウ）次年度の事業計画へ反映

上記評価結果と総括から、下記のことを「提案」する。

① 福祉サービスの提供に関わる専門職（有資格の職員）の配置等、「必要な福祉人材や人員体制」について具体的な計画に基づき、働きやすい職場作りの取り組みとして、その具体的な計画の改善策立案を実施する。（継続）

② 「総合的な福利厚生」の実施を目的とした、職員の希望を聴取する。（２回目）

③ 民生・児童委員との会議の開催やアンケート調査などを通じ、「具体的な地域の福祉ニーズ」を把握する。（継続）

④ 利用者（保護者）からの相談を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討、フィードバックや公表の方法等のマニュアルを整備する。（新規）

⑤ サービスの開始・変更時に、利用者がわかりやすいように工夫された資料を用いて説明するための「わかりやすい版重要事項説明書」を作成する。（継続）

⑥ 災害時のＢＣＰ（事業継続計画）を作成する。（新規）

⑦ 権利侵害の防止等のために具体的な内容・事例を収集・提示して利用者に周知する。（新規）

（エ）各提案の事業計画担当（取り組み担当）

① 佐藤直幸、植田善久、中嶋綾子

② 三上拓雄

③ 笹田和夫

④ 田中大生

⑤　中畑幸
⑥　白石安英
⑦　中平恵美

（６）総合的な福利厚生（三上拓雄）

ア　令和３年度までに提供している「法定福利厚生」

・雇用保険
・健康保険
・労災保険
・定期健康診断の実施（宿直業務は、年２回）

イ　令和３年度までに提供している「法定外福利厚生」

・資格手当の支給
・扶養手当の支給
・通勤手当の支給
・住居手当の支給
・資格取得の支援
・育児・介護休暇の支援
・勤務時間短縮の支援
・特別休暇の支援
・職員互助会の活動運営

ウ　令和３年度から新たに提供した「法定外福利厚生」

・インフルエンザの予防接種費用負担

２　生活介護（中畑幸、山内彩子）

（１）事業目的

常時介護を必要とする方に排泄、食事等の介護や、創作活動、生産活動等の機会を提供した。また、自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、生活能力の向上のために必要な援助を行うことを目的とした。

そのため、一人ひとりの持つ能力を最大限に生かし、作業・生活を中心とした小集団によるプログラムと個別ケアの二本柱で支援を行った。

（２）事業概要

ア　身体能力の訓練・維持向上（ＡＤＬを高める取り組みを行った）
イ　生活改善（ＱＯＬを高める取り組みを行った）
ウ　創作的活動の機会
エ　排泄及び食事・入浴等の介護
オ　余暇活動（週間行事予定として）

（３）支援内容

事業目的に掲げるサービスを基にした内容のプログラムに沿って、創作活動や、

機能訓練等を行った。

また、就労継続支援Ｂ型を利用されている方々との交流も大切にし、変化に富んだ楽しい時間を過ごしていただけるような工夫をしながら日中活動を行った。その交流の中で情報や技術を習得し、社会参加への第一歩となれるよう支援を行った。

ア　生活支援

（ア）健康チェック

１日２回（午前・午後）バイタルチェックを行った。検温時に熱が高い場合やいつもと違う様子があった場合はすぐにご家族に連絡をして迎えに来て貰う等の対応し家族との連携を図った。また、月に１回第１火曜日、医師による往診を行ったが、２月にコロナ感染者が出たことで、２週間の施設閉鎖となった。そのため、再開してからは更に健康チェックを行った。

（イ）掃除・洗濯・調理等の生活技能訓練活動

ＳＳＴによるコミュニケーション能力向上の為の支援を行った。

（ウ）排泄の支援及び介助

必要に応じ支援を行った。

（エ）入浴の支援及び介助

毎週火曜日に入浴介助を行った。令和３年度対象者は男性１名。それ以外は必要に応じて行った。

イ　活動支援

（ア）生産活動

しいたけ作業の手伝いや銅線剥き、トレー洗い、缶洗いなど、個々の能力に合わせて活動支援を行った。また、個人の能力を引き出すために、様々なことを体験してもらい、できたことを継続して行うようにした。その結果、午前の前半は生活介護の方全員がしいたけ作業に取り組むことができた。

（イ）創作活動

塗り絵や折紙などを行った。

（ウ）余暇活動

運動不足による体重増加がみられるため、散歩やボール遊びなど体を動かす活動をそれぞれの利用者に合わせて取り組んだ。

普段外出する機会が少ない利用者には、行事を利用して色々体験し楽しめるようにした。

（エ）機能訓練

ラジオ体操やストレッチ、ウォーキング等をおこなった。また、本人の身体能力に合わせたエアバイクなども取り入れた。

（オ）その他

それぞれの特性を考慮し、しいたけ作業でできることを取り入れ、活発的に活動できた。また、午後も外へ出て活動できるように職員の体制も考慮した。

（４）年間収入

８５６，９９７円

３　就労継続支援Ｂ型

（１）生活支援

ア　ワークキャンパス大鰐（山内彩子）

（ア）総括

日常生活に必要な基本的生活習慣の自立を目的とした。

自立性を養い、毎日の積み重ねによって、望ましい習慣の形成や社会生活の態度・性格の社会的適応性を育成し、地域生活への移行を念頭におき、保護者や関係機関と情報共有しながら支援を行った。

（イ）支援内容

①　基本的習慣の定着

あいさつ、時間を守る、排泄、生理の手当て、入浴、衣類の着脱、衣類の調整、洗濯、洗濯した衣類のたたみ方、歯磨き、手洗い、うがい、手指のアルコール消毒、黙食、食事の後始末、整理整頓、掃除などの支援を行った。

②　コミュニケーションの支援

ａ　言語の受容と表出に関する支援を行った。

ｂ　パニックに対する本人及び周りの利用者への理解に関する支援を行った。

ｃ　コミュニケーション手段の選択と活用に関する支援を行った。

③　行動に支障がある利用者に対する支援

ａ　精神面及び身体面に関する理解とそれに関する支援を行った。

ｂ　強度行動障害への理解とそれに関する支援を行った。

ｃ　自閉症に対する理解とそれに関する支援を行った。

④　日常生活を送るために安全な環境作りの支援

ａ　奇数月に職員が安全巡視を行って危険な所を確認し改善した。

ｂ　作業場の整理整頓を実施し足場等に危険がないように配慮した。

ｃ　行事活動及び休憩時間等に怪我をしないように注意した。

ｄ　危険と思われる物（刃物、工具など）は、事務室や施錠できる場所に保管した。

⑤　その他の支援

ヒヤリハットの報告を共有し、事故や怪我が起きないよう再発防止に努めた。

イ　ワークショップ大鰐（中平恵美）

（ア）総括

日常生活に必要な、基本的生活習慣の自立を目的とした。

自立性を養い、毎日の積み重ねによって望ましい習慣の形成や、社会生活におけるマナーやルール等の社会的適応性を育成し、地域生活への移行を念頭におき、保護者及び関係機関と情報共有しながら支援した。

また、グループホームの利用者においては保護者や世話人などと情報共有しながら自立した生活を送れるよう支援した。

（イ）支援内容

①　基本的習慣の定着

あいさつ、排泄、生理の手当て、衣類の着脱・調整・たたみ方、歯磨き、手

洗いとマスク装着の徹底、食事とその後始末、整理整頓、掃除、洗濯支援をした。

② コミュニケーションの支援

言語表出が難しい利用者に対しては、できるだけ分かりやすい言葉で話しかけ、行動を気に掛けるよう配慮した。

聴覚に障害のある利用者に対しては、聞き間違いによるトラブルがないよう、本人の近くでゆっくりはっきり話すよう配慮した。

パニックに対する本人への支援としては、本人が何を訴えているのか職員が気づくことや、パニックにならないよう視覚支援を用いたりした。

③ 行動に支障がある利用者に対する支援

精神障害に関する理解とそれに関する支援として、利用者が納得できるまで話を聞き、できるだけ本人の気持ちに寄り添えるよう配慮した。

聴覚障害に関する理解とそれに関する支援として、筆談を用い、作業説明をする時は、個別に話す、顔をみて話すなどの配慮をした。

また、車輌の乗り降りなど支援が必要な際など安全面に配慮した。

発達障害に関する支援として、それぞれの特性に応じた環境作り（特性に応じた作業に取り組ませる）やスケジュールの変更などは、事前に知らせるなど配慮した。

④ 日常生活を送るために必要な安全な環境作りの支援

a 作業場を整理整頓し足場等に危険がなく、利用者が作業しやすいように配慮した。

b 行事活動及び休憩時間等に怪我をしないように配慮した。

c 危険と思われる工具は、事務室に保管した。

d 奇数月に職員が両施設やグループホームの安全巡視を行い危険と思われる箇所の改善を行った。

e ヒヤリハットの報告を徹底し再発防止に勤めるように話し合いを行った。

⑤ その他の支援

利用者が自立するため保護者との連携、協力を図りながら支援を行った。

コロナウイルス対策として、手洗い・うがいの徹底を指導し、正しいマスクの付け方を指導した。食堂のテーブルにパーティーションを設置している。

（２）作業支援

ア　ワークキャンパス大鰐（植田善久）

（ア）総括

令和３年度はＢ型利用者２１名、生活介護８名でスタートしたが、令和４年３月にＢ型利用者１名が体調面を理由に退所された。

また、令和４年２月には利用者がコロナウイルスに感染したことにより、職員にも感染が拡大した。この結果、２週間の施設閉鎖を実施した。１月からマスクの励行・昼食時も時間をずらすなど感染対策を実施したが防ぐことができなかった。感染の収束が見通せない状況であるが、今後も感染予防の徹底を継続する。

しいたけ作業では散水作業に今まで経験のない利用者もチャレンジし、結果として現在２名が積極的に散水作業に入ることができている。

令和３年度、作業に従事することができなくなってしまった就労継続支援Ｂ型の利用者が１名いる。送迎に間に合わないことが多く、朝の送迎を３０分早めて職員が着替えの介助をしている。現在も作業に従事することができない状況が続いている。

また、令和２年度と同様に令和３年度も休み明けは必ず体調不良を訴える就労継続支援Ｂ型利用者がいる。声掛け等をしているが改善されていない。

令和４年度は、しいたけハウスが合計７棟になる予定のため、これまで取り組んできた「ジョイントジョブ（通称ジョジョ）」のメンバーによる活躍の機会がさらに多くなると予想される。より一層ハウスの管理を情報交換してしいたけ売り上げ増を目指していきたい。

令和３年度の平均工賃は、目標１２，０００円に対し、１１，７５２円であった。

（イ）銅線の被覆剥き

a　年間収入

令和３年度は７９８，６９９円であった。

b　令和３年度の状況

例年どおりしいたけ作業の閑散期に行っている。

c　令和４年度への課題

剥く人のペースが速く、カッターを使用する利用者達が追いつかない状況があった。令和４年度は新規利用者が増えるため効率的に銅線作業を進めていきたい。

（ウ）部品の組み立て（有限会社アール）

a　年間収入

令和３年度は４７，８９８円であった。

b　令和３年度の状況

令和３年度は２年度に比べると受注の回数は増えた。特にチューブ入れと端子挿入はほぼ月に１回のペースで来ているため、今後も期待したい。

c　令和４年度への課題

受注は不定期なため、臨機応変な対応が求められる。

（エ）その他の作業

a　年間収入

令和３年度は１０，４００円であった。

b　令和３年度の状況

枝拾いには迅速に対応できたが、環境整備の面では草取り・草刈りが追いつかなかった。

c　令和４年度への課題

令和４年度は、作業状況を見ながら計画的に行いたい。

イ　ワークショップ大鰐（中嶋綾子）

（ア）総括

ワークショップ大鰐がしいたけ作業に取り組み令和３年度で丸４年がたった。職員、利用者共にハウス管理、調整等の作業が十分定着している。それに伴い一定の期間ではあるが利用者のみで作業に取り組む「ジョイントジョブ（通称ジョジョ）」のメンバーによるハウス管理も実施し、両施設の利用者が合同で作業をすることが可能になった。その中で、協調性や作業に対しての責任感の向上等、精神面での成長も見られ全体的な意欲向上に繋がったように思う。

受託作業については、どの作業においても利用者自身が理解し取り組めるようになってきている。

令和４年度は、しいたけ事業に新しく作業棟（プレハブ）の建設計画があり、この新作業棟を活用し、利用者個々に「できることへ着目した支援」の取り組みをしたい。そのことにより作業効率を高め、法人全体でのしいたけ収入増に繋げていきたい。

令和３年度の平均工賃は、目標１０，０００円に対し１０，１８３円であった。

（イ）受託部門

① リサイクル（東北クリーン）

a 年間収入　１，１５１，６６０円

b 令和３年度の状況

全利用者が作業全体の流れを理解し、やるべき事を自主的に取り組むことができていた。新型コロナウイルス感染症の影響もあり回収する量が前年に引き続き減ったように思われる。

c 令和４年度への課題

感染症予防のため、作業場の衛生面に気をつけ、季節に応じた作業場の環境整備をする。

② 水道メーターの分解（東管工業）

a 年間収入　１７，８４８円

b 令和３年度の状況

作業が少なくなった時の合間作業として実施。利用者がほぼ自主的に準備から片付けまでおこなえるようになっている。

c 令和４年度への課題

分解と洗浄作業は定着しつつあるが分別の種類が多いため、種類ごとの分別ができる利用者の育成を継続して進める。

③ フルーツキャップ作業（DMノバフォーム）

a 年間収入　１１８，４３２円

b 令和３年度の状況

大きく分けて３つの工程があり、利用者が自分の作業として自信のある工程に自主的に取り組むことができていた。また少人数ではあるが袋詰めができる利用者も増えてきている。

c 令和４年度への課題

作業場が手狭になってきているので空いている作業場の利用とそれに伴った環境整備で効率アップと収入増に繋げたい。

（ウ）自主部門

①　タオル名入れ印刷

a　年間収入　　２１８，７８４円

b　令和３年度の状況

コロナ状況下ではあったが人の流れのある時期にはカッパ温泉様から安定した受注があった。

ねぷたまつりやワークまつりが中止になり粗品の受注がなかった。

不定期の注文であるため作業との兼ね合いもあり利用者の育成とまではいかなかった。

c　令和４年度への課題

他の作業との兼ね合いをとりながら、時間のある時にタオルの印刷を進め、在庫を確保する。これにより期日が近く急ぎの作業とならずに、印刷補助、在庫確認、発送準備等、利用者が取り組める作業を育成する。

ウ　しいたけ事業（共通）（金枝友和、鎌田健司）

（ア）年間収入　　１５，３１４，８０６円

（内訳）

サンフェスタ石川	99,000	東日流青果（株）	3,836,730
学校給食センター	202,693	（株）ｸﾘｴｲﾄﾌｧｰﾑ仙台	659,179
碇ヶ関開発（株）	65,650	（有）雪の店	85,555
鰐ｃｏｍｅ	476,764	そうま屋米酒店	82,500
給食（法人）	50,600	津軽こみせ駅	0
（株）木村食品工業	383,940	弘前中央青果（株）	1,878,060
轍ファーム（株）	0	大鰐町ふるさと産品	44,200
（株）はとや製菓	1,127,520	丸大堀内（株）	11,664
紅屋商事（株）	3,057,245	現金販売	3,253,506

（イ）栽培記録

栽培菌種	入荷菌床数	入荷時期	発生期間
北研７０５号	3800 菌床（２号）	令和３年　４月	令和３年　７月 ～ 令和４年　４月
北研７０５号	3800 菌床（Ｂ）	令和３年　５月	令和３年　８月 ～ 令和４年　７月
北研７０５号	5200 菌床（Ｄ）	令和３年　６月	令和３年　９月 ～ 令和４年　６月
北研６０７号	3400 菌床（Ａ）	令和３年　９月	令和３年１２月 ～ 令和４年　９月
北研６０７号	3200 菌床（１号）	令和４年　１月	令和４年　５月 ～ 令和４年１２月
北研６０７号	3400 菌床（３号）	令和４年　３月	令和４年　６月 ～ 令和５年　１月
令和３年度　入荷菌床合計数　２２，８００菌床			

（ウ）令和３年度の状況

令和３年度では、コロナウイルスによる影響で訪問販売やイベント販売での収益が上がらなかったのは大きな痛手であった。年間をとおして前年度より収量が上がらず大口での取り引きのある東日流青果・カブセンター等にも思うような出

荷ができなかったため販売収入も伸び悩んだ。

夏場の暑さでの収量減もあったが年間をとおして収量が下がっていたため、令和４年度ではハウスごとの入荷時期の検討や菌床玉の刺激の方法・タイミングなども含め栽培方法を検討し安定した収量を確保できるよう考えて行きたい。

（エ）令和４年度への課題

ａ　温湿度データと収穫量の収集と分析によるノウハウの蓄積と共有。

ｂ　栽培方法の再検討。

ｃ　１号から２号ハウスでエアコン使用による菌床の乾燥の対処。

ｄ　ショップとキャンパスの利用者の共同作業の体制作り。

ｅ　両施設合同事業（一本化）に向けた環境作り。（ハウス整備・道具の準備等）

（オ）福祉農園等支援事業（「粉しいたけ」製品開発）報告（笹田和夫）

①　「粉しいたけ」の商品開発

ａ　ボトル　　２５ｇ　３５０円（税込）

ｂ　袋（詰め替え用）　２５ｇ　２５０円（税込）

②　利用者の作業スキル向上

ａ　ボトル・袋へのシール貼り作業

ｂ　「粉しいたけ」をボトル・袋に入れ、布で拭く作業

③　新商品発表・販売イベント

ａ　日時　令和３年１１月２０日（土）１０時～１３時

ｂ　会場　「鰐 come」売店

ｃ　当日配布（販売）

（ａ）新商品「粉しいたけ」

（ｂ）「粉しいたけ」を使った料理レシピの配布

（ｃ）「粉しいたけ」を使った料理「おにぎり」の配布

※「あかつきの会」に依頼

ｄ　ＰＲ活動

（ａ）各新聞社への取材依頼（東奥日報・陸奥新報・津軽新報）

（ｂ）「鰐 come」他、町内２０カ所に PR ポスターを配布

（ｃ）大鰐町役場各課にＰＲチラシを配布

④　一般販売　　※令和３年１２月中旬～

ａ　店舗販売

鰐 come　マックスバリュ大鰐店　カブセンター等

ｂ　保護者販売

ｃ　対面販売

町役場、町内外小中学校等

⑤　今年度の成果

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、事業内容の一部変更を余儀なくされたが、「あかつきの会」や大鰐会鰐come、町内商店、新聞社各社のご協力により、新商品発表・販売イベントを行うことができた。当日掲載された陸奥新報の記事を見てきたという人も多く、用意した「津軽あかつきの会」特製の粉しいたけを使ったおにぎり１００個（無料）も直ぐに無くなった。

１２月からは、鰐come、マックスバリュ大鰐店等で一般販売も行い、少しずつではあるが、売れはじめている。今後対面販売等をとおしてＰＲ活動を行っていきたい。

（３）工賃向上計画に関する報告

ア　ワークキャンパス大鰐（植田善久）

（ア）目標工賃達成実績

		実績					R2 年度対 H29 年度比（%）
		29 年度	30 年度	01 年度	02 年度	03 年度	
A 平均工賃（月額）　（円）	E÷F	10,640	10,800	11,500	11,631	11,752	110（%）
B 年間総収入　（千円）		16,260	13,687	18,500	21,000	16,171	99（%）
C 年間総原価（工賃除く）（千円）		9,747	10,879	12,000	13,600	14,000	143（%）
D 工賃支払前収支　（千円）	B－C	5,782	2,808	6,500	7,400	2,171	37（%）
E 年間工賃総額　（千円）		2,708	2,808	2,709	3,139	2,961	109（%）
F 年間延べ利用者数（人）		394	418	420	420	405	

※　工賃実績平均値計算式　総支給工賃÷総開所日数（行事日を除く）×２０日

※　新規利用者利用開始から３ヶ月分と、不定期利用者は計算から除く。

（イ）目標工賃達成状況

令和３年度は僅かではあるが前年度の平均工賃を上回ることができた。

コロナの影響を受け、しいたけ全体の売り上げは、著しく前年度を下回ってしまったため、令和４年度はコロナ感染者が増えても売り上げが落ちない方法を考えなければならない。

（ウ）令和４年度への課題

①　しいたけ事業

常に天気をチェックし、ハウスの発生状況や菌床玉の状況を見極めることができるよう職員がハウスの見回りを欠かさず行うことが必要である。

冷蔵庫のしいたけの在庫、今後の発生量を予想して臨機応変に販売数を決定していく。

夏期（７～９月）や、冬期間（１～２月）に一定量のしいたけが収穫できるよう工夫が必要。

②　内部事業

新規利用者への銅線剥きへの習熟度の向上を図る。

イ　ワークショップ大鰐（山中司）

（ア）目標工賃達成実績

		実績					R2 年度対 H29 年度比（%）
		29 年度	30 年度	01 年度	02 年度	03 年度	
A 平均工賃（月額）　（円）	E÷F	8,103	8,240	8,561	10,117	10,182	125（%）
B 年間総収入　（千円）		4,211	5,648	4,390	5,351	4,314	102（%）
C 年間総原価（工賃除く）（千円）		1,988	1,677	987	598	464	23（%）
D 工賃支払前収支　（千円）	B－C	2,233	3,971	3,403	4,847	3,850	172（%）
E 年間工賃総額　（千円）		3,196	3,447	3,563	4,249	4,124	129（%）
F 年間延べ利用者数　（人）		394	418	420	420	405	

※　工賃実績平均値計算式　総支給工賃÷総開所日数（行事日を除く）×２０日

※　新規利用者利用開始から３ヶ月分と、不定期利用者は計算から除く。

（イ）目標工賃達成状況

しいたけ事業を中心に、リサイクルや水道メーター、フルーツキャップ、タオルなどの施設内作業もできるだけ多くできるよう取り組んできた。その成果として令和３年度は前年度の平均工賃を、わずかではあるが上回ることができている。

（ウ）令和４年度への課題

①　しいたけ事業

a　職員は、菌床入荷から廃棄までのスケジュールを計画できるよう、習熟する必要がある。

b　計量・袋詰めなどの調整作業、及び乾燥しいたけのシーラーができる利用者を育成する。

c　キャンパス・ショップ利用者が協力して作業に従事できる体制（ジョジョ）の場面を増やす。

②　東北クリーン（リサイクル）

衛生管理を工夫する。

③　東管工業（水道メーターの分解）

分解後の種類分け作業ができる利用者を育成する。

④　DMノバフォーム（フルーツキャップ束ね）

きれいにそろえて束ねができる利用者を育成する。

袋詰めができる利用者を育成する。

⑤　タオル名入れ印刷

タオル印刷の補助ができる利用者を育成する。

たたみと袋詰めができる利用者を育成する。

４　拠点における各事業共通の支援

（１）保健支援

ア　ワークキャンパス大鰐（山内彩子）

（ア）保健指導年間実施日

①　定期健康診断

＜春＞　実施日　４月５日（月）～４月１６日（金）
　　実施者　２８名
　　場　所　小山内医院にて実施

＜秋＞　実施日　１０月５日（火）
　　実施者　２９名
　　場　所　ワークキャンパス大鰐ホールにて実施

②　身体測定（体温・血圧・体重）　計１１回実施

４月　５日	１０月　４日
６月　１日	１１月　２日
７月　１日	１２月　１日
８月　２日	１月　７日
９月　３日	２月　１日
	３月　７日

③　回診（生活介護利用者対象）

毎月　第１火曜日　午後　小山内先生の回診

④　大鰐町健康診断（大鰐町総合福祉センター）

婦人科検診・乳ガン検診・骨密度
→　５月３１日（月）１２：３０～１３：３０

大腸ガン・胃がん検診・特定健診
→　７月　９日（金）　９：００～　９：３０

検診項目	工・夏	柴・祐	花・真	山・幸	棟・育
大腸ガン	異常なし	異常なし	精密検査（１０月良性大腸ポリープ除去手術）	異常なし	異常なし
子宮頸ガン	－	異常なし（良性筋腫あり経過観察）	－	－	異常なし
卵巣ガン	－	異常なし	－	－	異常なし
乳ガン	－	異常なし	－	－	異常なし
骨密度	－	－	－	－	異常なし
胃がん	－	異常なし	－	－	－

特定健診		精密検査（両目白内障）	異常なし	異常なし	異常なし

⑤　インフルエンザ予防接種

・　実施日時　　１１月　２（火）　１３：３０～

・　実施場所　　ワークキャンパス大鰐　ホール

・　実 施 者　　利用者２１名　職員８名

なお、今年度、大鰐町は予防接種費用助成金が出たため、大鰐町在住者の予防接種費用は免除されている。

※　令和３年度　インフルエンザ罹患者　０人

⑥　コロナワクチン集団接種

・　１回目　実施日時　　８月１０日（火）１３：００～
　　実施場所　　ワークキャンパス大鰐　ホール
　　実 施 者　　利用者２５名　職員７名

・　２回目　実施日時　　８月３１日（火）１３：００～
　　実施場所　　ワークキャンパス大鰐　ホール
　　実 施 者　　利用者２３名　職員６名

・　３回目　実施日時　　３月１１日（金）１３：００～
　　実施場所　　ワークキャンパス大鰐　ホール
　　実 施 者　　利用者２１名　職員８名

（イ）保健日誌からのまとめ

感染症予防のために毎日の検温・うがい・手洗い・マスク着用を徹底した。（アルコール消毒液を設置）生活介護者には１日２回（午前・午後）の検温を実施した。また、施設内の換気や消毒も徹底し通年で毎朝の検温を行い、食堂のテーブルにパーティーション設置。昼食時は黙食を徹底してもらった。

梅雨時、夏場の気温上昇時は水分補給や休憩を増やすなどの対策を行った。

インフルエンザ予防接種を１１月２日（火）に実施した。希望利用者３０名。

新型コロナワクチンの接種を１回目８月１０日（火）、２回目８月３１日（火）、３回目３月１１日（金）に実施した。それぞれ希望利用者３０名。

更に不要不急の外出を控えていただくなど、保護者への協力も呼びかけた。今後も感染予防を徹底していく必要がある。

６月中旬から９月上旬まで、熱中症予防対策として利用者全員にクールネックを購入した。また、５月中旬からは水分補給として適度に麦茶を提供した。こまめに水分補給と塩分タブレットを摂取し、適度な休憩を取りながら作業を行った。

毎週水曜日、男子利用者（３名）の入浴を実施している。今後も状況を見ながら、生活介護の方以外も危険のないよう入浴を行う。また、入浴は利用者の健康維持、清潔保持を目的とするだけではなく身体の異常の発見にも繋がることもある。入浴時は身体の観察なども行う。入浴の目的は様々あり利用者の障害に応じて、危険がないよう安全な方法で気持ち良く入浴支援を行う。

毎月第１火曜日の午後１時３０分より、小山内医院医師がキャンパスに来所

し、生活介護利用者対象に回診が行われている。就労継続支援Ｂ型の利用者については本人から希望がある時のみ診察を行った。

（ウ）利用者の健康状態

① 健康状態に留意した利用者　９名（詳細は別冊）

② 通院の詳細は別冊『通院報告書』を参照

③ ２月１７日（木）から新型コロナウイルス罹患者　計１０名（疑い者含む）。（詳細は別冊）

イ　ワークショップ大鰐（中平恵美）

（ア）保健指導年間実施日

定期健康診断	身体測定（血圧・体重）
・春の定期健康診断 令和３年４月１９日（月）～ ５月７日（金） ・秋の定期健康診断 令和３年１０月６日（水）	令和　３年　５月２５日 令和　３年　６月２９日 令和　３年　７月２１日 令和　３年　８月２６日 令和　３年　９月２７日 令和　３年１０月２５日 令和　３年１１月２５日 令和　３年１２月２４日 令和　４年　１月２５日 令和　４年　２月２５日 令和　４年　３月２５日
計　１回	計１１回

（イ）体力測定

１１月２０日（土）　レクリエーションで実施

（ウ）保健日誌からのまとめ

毎日の利用者さんの表情や行動からその日の健康状態（特に精神状態）を把握し作業中の事故などを未然に防ぐ様に配慮した。

通年で毎朝の検温を行い、感染症予防のうがい・手洗い・アルコール消毒・マスク装着を徹底し声掛けを実施した。食堂のテーブルにパーティーションを設置した。

梅雨時、夏場の気温上昇時は水分補給や休憩を増やすなどの対策を行った。

インフルエンザ予防接種を令和３年１１月９日（火）に実施した。希望利用者３０名。

新型コロナワクチン集団接種を１回目８月１１日（水）、２回目９月１日（水）、３回目令和４年３月１８日（金）に実施した。希望利用者３０名。

（エ）利用者の健康状態

※　健康状態に留意した利用者　１３名（詳細は別冊）

（２）余暇活動支援

ア　ワークキャンパス大鰐

（ア）行事等（植田善久）

月日（曜日）	行事名	参加者数	実施場所
４月１０日（土）	春の三者面談	利用者１５名 保護者１５名	ワークキャンパス大鰐
５月　１日（土）	黒石やきそばレク	利用者１９名	ワークキャンパス大鰐
５月１５日（土）	ラーメンレク	利用者２１名	ワークキャンパス大鰐
５月２９日（土）	ハンカチ染めレク	利用者１７名	ワークキャンパス大鰐
７月　３日（土）	ハイキングレク	利用者１８名	わんぱく広場 ラグビー場
７月１７日（土）	焼き肉レク	利用者２４名	ワークキャンパス大鰐
８月　７日（土）	工作レク	利用者１５名	ワークキャンパス大鰐
８月２８日（土）	フルーツポンチレク	利用者１８名	ワークキャンパス大鰐
９月　４日（土）	チャレンジスポーツレク	利用者１６名	ワークキャンパス大鰐
９月１８日（土）	お楽しみ会	利用者２６名	ワークキャンパス大鰐
１０月　９日（土）	秋の三者面談	利用者１４名 保護者１４名	ワークキャンパス大鰐
１０月２３日（土）	買い物レク	利用者１９名	ワークキャンパス大鰐
１１月１３日（土）	買い物レク	利用者１６名	ワークキャンパス大鰐
１１月２７日（土）	工作レク	利用者１４名	ワークキャンパス大鰐
１２月１１日（土）	忘年会	利用者２４名	鰐 come
１２月２５日（土）	年賀状レク	利用者１３名	ワークキャンパス大鰐
１月２９日（土）	中華を食べようレク	利用者１９名	ワークキャンパス大鰐
２月１１日（土）	大鰐もやしを食べようレク	利用者１９名	ワークキャンパス大鰐
合計実施回数　１８回		延べ参加者　３２７名	

※コロナ感染症拡大のため１／１５、２／２６、３／１９のレクは中止となった。

（イ）利用者会活動

①　利用者会全体会（金枝友和）

実施日	主な内容
令和　３年　４月　１日（木）	・三者面談のお知らせ ・利用者会について ・委員会について ・新担当について ・２・３月頑張った人

６月　１日（火）	・三者面談の感想 ・黒石やきそばレクの感想 ・ラーメンレクの感想 ・ハンカチ染めレクの感想 ・４・５月頑張った人
８月　２日（月）	・ハイキングレクの感想 ・焼き肉レクの感想 ・６月・７月頑張った人 ・美化委員会からお知らせ
１０月　１日（金）	・工作レクの感想 ・フルーツポンチレクの感想 ・工作レクの感想 ・お楽しみ会レクの感想 ・８月・９月頑張った人 ・美化委員会よりお知らせ
１２月　１日（水）	・三者面談について ・買い物レクの感想 ・工作レクの感想 ・１０・１１月頑張った人
２月　１日（火）	・利用者忘年会の感想 ・年賀状レクの感想 ・中華料理を食べようレクの感想

②　行事委員会（植田善久）

コロナウイルス感染症の影響で外出を伴う行事は開催できず、キャンパス内での活動が多く制限を受けた１年となった。活動は３回。

月	日	曜日	内　容	場　所	備　考
４	１	木	役員選出	キャンパス食堂	利用者　６名
８	１２	木	やってみたい行事について	キャンパス食堂	利用者　６名
９	３０	木	忘年会について	キャンパス食堂	利用者　６名

※　令和３年度　行事委員会活動　計３回

③　広報委員会（植田善久）

毎月月初めに委員会を開くことができた。利用者も積極的に参加することができ、利用者主体で行うことができた。

ポスター等を玄関ホールに掲示した。

月	日	曜日	内容	場所	備考
4	1	木	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　６名
5	6	木	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　６名
6	1	火	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　６名
7	1	木	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　５名

8	2	月	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　６名
9	1	水	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　６名
１０	1	金	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　６名
１１	1	月	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　５名
１２	1	水	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　６名
1	4	火	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　５名
2	1	火	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　６名
3	1	火	広報委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　６名

④　お茶委員会（中畑幸）

利用者の毎日のお茶の準備、休憩時のテーブル拭きやおやつの準備など各担当を決めて行った。毎日の委員会の仕事をとおし、自主性・責任感を養った。

各担当の活動日は、毎日『お茶休憩時』、毎週水曜日は『お茶休憩時・昼休み』、毎週金曜日は『お茶休憩時・昼休み』に行った。それぞれの担当が不在の時は、別の担当者が行った。また、毎月第３週目を会議日とし、翌月のおやつの計画を立てている。

月	日	曜日	内　　容	場　　所	備考
4	２０	火	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　６名
5	１８	火	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　５名
6	１７	木	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　６名
7	２２	木	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　５名
9	２４	金	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　５名
１０	２１	木	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　４名
１１	１７	水	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　５名
１２	１４	火	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　５名
1	２８	金	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　５名
2	１５	火	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　５名
3	２２	火	お茶委員会	ワークキャンパス食堂	利用者　５名

⑤　美化委員会（山内彩子）

a　毎日、掃除道具の管理を行った。

b　毎週金曜日に雑巾を回収し洗濯を行った。

c　掃除用具の破損の点検や補充等を月１回行った。

d　日用品の補充（石鹸、トイレットペーパー、箱ティッシュ等の補充）等は、その都度行った。

e　花の鉢植えを行い、曜日の当番を決めて水やりを行った。（６～１０月頃ま

で実施。）

ｆ　季節に応じて施設内の装飾を行った。

ｇ　２か月に１度、委員会で掃除当番を決めて掲示板に掲示した。

ｈ　年２回、大掃除の場所を決めて８月にはホールと作業室の窓拭きなどの大掃除、扇風機・設置と掃除なども行った。

ｉ　定期的に蜘蛛の巣はらいを行った

月	日	曜日	実施内容	備　考
４	１２	月	蜘蛛の巣はらい	利用者　２名
５	１４	金	プランター定植	利用者　５名
６	２２	火	蜘蛛の巣はらい	利用者　４名
７	６	火	蜘蛛の巣はらい	利用者　４名
７	８	木	花の手入れ	利用者　５名
７	３０	金	扇風機設置	利用者　３名
８	１０	火	蜘蛛の巣はらい	利用者　２名
８	２０	金	花の手入れ	利用者　４名
９	２９	水	花の手入れ	利用者　３名
１０	１８	月	プランター片付け	利用者　５名
１０	２９	金	蜘蛛の巣はらい	利用者　４名
１１	１	月	ストーブ設置	利用者　２名
１２	２０	月	クリスマスツリー飾り付け	利用者　３名
１２	２９	金	クリスマスツリー片付け	利用者　３名

ア　ワークショップ大鰐

（ア）行事等（鎌田健司）

月日（曜日）	行事名	参加者数	実施場所
４月１７日（土）	春の三者面談	利用者２５名 保護者２７名	ワークショップ大鰐
５月　１日（土）	こいのぼりアート	利用者１６名	ワークショップ大鰐
５月　８日（土）	ペットボトル ランタン作り	利用者１６名	ワークショップ大鰐
５月２２日（土）	阿闍羅山散策	利用者１８名	ワークショップ大鰐
７月１０日（土）	バーベキュー	利用者２１名	ワークショップ大鰐
７月２２日（木）	ミニ運動会	利用者１８名	ワークショップ大鰐
８月　７日（土）	カラオケ	利用者１６名	ワークショップ大鰐
８月２１日（土）	夏まつり	利用者１７名	ワークショップ大鰐
９月１１日（土）	夏まつり２	利用者１９名	ワークショップ大鰐

９月２３日（木）	ＤＶＤ鑑賞	利用者１６名	ワークショップ大鰐
１０月１６日（土）	秋の三者面談	利用者２４名 保護者２５名	ワークショップ大鰐
１０月３０日（土）	ミニ運動会	利用者１９名	ワークショップ大鰐
１１月　６日（土）	ポーチ作り	利用者１９名	ワークショップ大鰐
１１月２０日（土）	体力測定と焼き芋	利用者１９名	ワークショップ大鰐
１２月　４日（土）	忘年会	利用者２６名	ワークショップ大鰐
１２月１８日（土）	フラワーアレンジメント	利用者１４名	ワークショップ大鰐
１月　８日（土）	ハンカチ染め	利用者１７名	ワークショップ大鰐
１月２２日（土）	クリスタルパズル	利用者２０名	ワークショップ大鰐
２月　５日（土）	ＤＶＤ鑑賞	利用者１７名	ワークショップ大鰐
２月１９日（土）	チョコレート作り	利用者１９名	ワークショップ大鰐
３月１２日（土）	スノードームづくり	利用者１４名	ワークショップ大鰐
合計実施回数　２１回		延べ参加者　４４２名	

（イ）利用者会活動

①　利用者全体会（中嶋綾子）

利用者全体会前日に役員会を開き利用者全体会の議案の確認を行った。

偶数月の初日に１５：００時から、利用者全体会を実施。利用者主体の活動であるため進行などを、利用者会役員に進めてもらい職員はアドバイス等で支援している。

行事の感想、各委員会からの報告、その他として利用者に自由に意見を発表してもらった。令和４年度の頑張った人の発表は年１回忘年会時期にし、職員から生活面、作業面で頑張った人を発表し、賞状を贈呈した。

実施日	議案（主な内容）
令和３年　４月　１日（木） 出席　３２名（欠席　２名）	利用者会総会 （事業報告、会計報告、事業計画について） 新役員の発表 その他（令和３年度各委員会の希望を募った）
６月　１日（火） 出席　３０名（欠席　４名）	行事についてお知らせ、感想発表 各委員会からの発表、報告 その他（利用者からの自由発表）
８月　２日（月） 出席　３１名（欠席　３名）	行事についてお知らせ、感想発表 各委員会からの発表、報告 その他（利用者からの自由発表）
１０月　１日（金） 出席　３０名（欠席　４名）	行事についてお知らせ、感想発表 各委員会からの発表、報告 その他（利用者からの自由発表）

１２月　３日（金） 出席　３２名（欠席　２名）	行事についてお知らせ、感想発表 各委員会からの発表、報告 その他（利用者からの自由発表）
令和４年　２月　１日（火） 出席　２８名（欠席　６名）	行事についてお知らせ、感想発表 各委員会からの発表、報告 その他（利用者からの自由発表）

②　行事委員会（山川裕紀子）

新型コロナウイルス感染症の影響で「ボウリング大会」など外出を伴う行事は、予定変更となった。施設内開催での行事では、なるべく行事委員会が携われる機会を作り活動を行った。

下記のとおりに会議を実施、行事の内容・委員会の役割について会議を行った。利用者忘年会については、司会進行等の練習や各自の役割分担を決め積極的に行事遂行に携わった。

月	日	曜日	内　容	場　所	備　考
４	１２	月	役員選出	ショップ食堂	利用者　９名
５	２６	水	今後の行事について 話し合い	ショップ食堂	利用者１０名
６	２２	火	カラオケ 話し合い	ショップ食堂	利用者　８名
７	２６	月	今後の行事について 話し合い	ショップ食堂	利用者　８名
８	２０	金	夏祭り１ 準備	ショップ食堂	利用者　５名
８	２１	土	夏祭り１ 遂行手伝い	ショップ 正面玄関前	利用者　６名
９	１１	土	夏祭り２ 遂行手伝い	ショップ駐車場	利用者　６名
１１	９	火	利用者忘年会 話し合い	ショップ食堂	利用者　９名
１１	２９	月	利用者忘年会 景品準備他	作業室３	利用者　６名
１２	２	木	利用者忘年会 遂行予行練習	ショップ食堂	利用者　８名
１２	４	土	利用者忘年会 司会進行、遂行	ショップ食堂	利用者　９名

※　令和３年度　行事委員会活動　計１１回

③　広報委員会（幸山稚子）

毎日の作業配置、毎月の行事、レクリエーションの写真、掲示物の張り替えを行った。

ポスター等を玄関ホールに掲示した。

活動日（委員会会議）は、利用者全体会の翌日の１２：３０～１２：５０として行った。

月	日	曜日	内　　容	参加人数
４	７	水	各役割を決定	利用者１１名
６	２	水	壁新聞についての話し合い、新聞名決定	利用者　９名
８	３	火	壁新聞の役割（インタビュー記事・イラスト）決定	利用者　８名
１０	５	火	壁新聞のインタビュー記事の内容決定	利用者　７名
１２	６	月	壁新聞制作開始	利用者　６名
２	８	火	壁新聞完成・掲示	利用者１０名

④　お茶委員会　（中平恵美）

利用者の毎日の施設でのお茶や作業用のお茶の準備、休憩時のテーブル拭きやおやつの準備など各担当を決めて行った。毎日の委員会の仕事をとおし、自主性・責任感を養った。

各担当の活動日は、毎日『朝・休憩・昼休み・帰宅時』とし、それぞれの担当が不在の時は、別の担当者が行った。また、毎月最終週の水曜日を会議日とし都合によってはその前後日に翌月のおやつの計画を立てている。

月	日	曜日	内　容	場　所	備　考
４	９	金	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者１１名
５	２６	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者１１名
６	２９	火	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者１１名
７	２８	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者１１名
８	２４	火	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者１１名
９	２９	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者１０名
１０	２７	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者１０名
１１	２４	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　５名
１２	２９	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　６名
１	２０	木	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　７名
２	２４	木	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　９名
３	２４	木	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者　８名

５　給　食（山口美香）

（１）業務内容

ア　毎日の業務

（ア）食材の買い出しを毎日ではなく、土曜日か日曜日にまとめ買いした。

（イ）平日の昼食の調理、食器・調理器具等の洗浄、清掃、除菌を行った。

（ウ）喫食者名簿、給食自主点検表、給食関係納品書、廃棄量調査、給食検食日誌、食品の加熱加工の記録、食品検収及び保管時の記録、給食配送記録簿を作成した。

イ　月間の業務

（ア）担当する職員の検便を実施した。

（イ）献立作成、発注書作成・発注業務、栄養出納表を毎月行った。

（ウ）見積書の作成は、購入業者に月１回の実施をすることで計画したが、新たに希望商品があった時、納品価格に変更があったときにお願いした。

ウ　年間の業務

（ア）年２回の大掃除を行った。

（イ）嗜好調査、給食だよりについては実施回数不足だった。令和４年度は計画どおり年４回実施したい。

（ウ）年度初めに健康診断後、荷重平均栄養必要量を作成した。

（エ）年度末に、年間栄養摂取量表、食糧構成表を作成した。

（オ）市場調査を実施した。

エ　業務特記事項

（ア）事業計画には利用者の希望にあった献立に配慮するとしたが、希望だけでなくバランスのとれた献立に注意した。

（イ）厨房の衛生面については、新型コロナウイルス感染症防止の意味もあり、特に注意した。週１～２回程度だった布巾、調理台、冷蔵庫、床などの除菌は毎日するようにした。

（２）特別メニュー

ア　行事食

行事食は七夕、十五夜、芋煮、冬至、クリスマス、ひな祭りと６回実施した。

イ　郷土食

（ア）生まれ育った地域の料理は、「みそおでん」を実施した。

（イ）近県の郷土食は「芋煮」、「十和田バラ焼き」を実施した。

ウ　新メニュー

（ア）チョレギサラダ

（３）給食だよりの発行

ア　発行

３ヶ月に１回、年４回の発行予定だったが、１回しか発行できなかった。

イ　令和４年度への課題

前年度同様、写真、イラストなどを多く取り入れ、楽しめる給食だよりにした

い。まずは給食だよりを確実に年４回発行するために、作成する時間をつくる工夫をしないといけない。

（４）嗜好調査

ア　実施

３ヶ月に１回　年４回の実施予定だったが、２回しか実施できなかった。

喫食者による食事評価は、職員の検食を参考にした。

イ　令和４年度への課題

調査では、好きなもの・嫌いなものを書いてもらってはいるが、提供できるものとできないものがある。基本的にフルーツ、野菜以外の生食は提供しないは継続する。利用者の嗜好調査のアンケート用紙を、今よりももっと簡単に記入できるよう工夫したい。

（５）まとめ・反省

利用者の好き嫌いが多くなったように感じた。嫌いと言っても職員の声掛けでは食べる利用者もいる。アレルギーの報告はないので、一度声掛けしてもよいと思った。

白米のみの残食はでるが、丼物やカレーライスなどご飯に何かがかかっていれば残食は少なかった。生野菜も副菜の付け合わせよりは、グリーンサラダ、チップサラダなど野菜のみのときの方が、残食が少ないように感じた。

キャンパスの利用者はショップの利用者に比べて年齢層が上回るので、昨年同様普通食のご飯の量を２００ｇより１０ｇ減らし、盛りつけで少なく感じないように工夫したい。

６　避難確保計画

（１）目　的（白石安英）

この計画は、水害・土砂災害が発生する恐れがある場合における施設等利用者の円滑かつ迅速な避難の実施により、地震災害・火災等の災害時の安全確保を図ることを目的として昨年度策定し、この目的達成のため、以下の防災訓練を計画し必要な訓練を実施した。

また、施設内外における火気及び電気系統の取り扱いについて常に細心の注意を払い利用者と職員の安全が確保できるよう注意喚起した。

防災訓練については、計画どおりワークキャンパス大鰐・ワークショップ大鰐は年３回実施した。各グループホーム(あやめ、さくら、こすもす、すみれ)は、年２回の訓練を実施し、緊急時の対応に備えるほか、消防設備の点検などを実施して、災害防止に万全を期することができた。

また、今年度は、各施設・グループホームとも町指定の緊急避難所までの移動訓練を実施し、その行程を確認した。移動訓練の結果をもとに危機管理を徹底し、視覚障害、聴覚障害、身体障害のある利用者が、安全かつ迅速に避難できるよう必要に応じて職員が連携して対応するため工夫に努めた。

次年度の移動訓練については、状況に応じて実施できるよう準備を進める。

（２）防災訓練計画（金枝友和、鎌田健司）

ア　ワークキャンパス大鰐

（ア）実施状況

・利用者に対し、点呼時返事を大きくするように指導を行った。

・「おはしも」の徹底（押さない・走らない・しゃべらない・もどらない）をした。

・消火・誘導・放送の分担を明確にして責務を果たした。

・自然災害時の町指定緊急避難場所までの移動訓練は、９月２４日に実施した。

実施日	訓練種別	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	避難時間
5/１４	部分	14:00~14:20	火災	事務室	缶洗い場	２分３５秒
9/２４	総合	14:30~14:50	地震	震度６	缶洗い場	２分４０秒
3/１８	部分	14:00~14:20	火災	作業室１	缶洗い場	２分４７秒

（イ）令和４年度への課題

・しいたけ作業時を想定としたショップと共同での訓練の実施

・職員が手薄な際の非難誘導

・自然災害時の町指定緊急避難場所までの移動訓練の結果を踏まえて、状況に応じて実施

・非常時の防災グッズの整備

イ　ワークショップ大鰐

（ア）実施状況

・利用者に対し、点呼時返事を大きくするように指導を行った。

・「おはしも」の徹底（押さない・走らない・しゃべらない・もどらない）をした。

・自然災害時の町指定緊急避難場所までの移動訓練は、９月２４日に実施した。

実施日	訓練種別	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	避難時間
5/１４	部分	15:00~15:20	火災	食堂	駐輪場	４分１５秒
9/２４	総合	14:30~14:45	地震	震度６　火災	駐輪場	４分１０秒
3/１５	部分	13:20~13:35	火災	事務室	駐輪場	４分２秒

（イ）令和４年度への課題

・しいたけ作業時を想定としたキャンパスと共同での訓練の実施

・自然災害時の町指定緊急避難場所までの移動訓練の結果を踏まえて、状況に応じて実施

ウ　グループホームさくら（介護サービス包括型）

（ア）実施状況

・利用者に対し、点呼時返事を大きくするように指導を行った。

・「おはしも」の徹底（押さない・走らない・しゃべらない・もどらない）をした。

・職員に対し、普段一人勤務のため、第一優先は「人命」であることを再確認した。

・避難する際に行うべき機器の取り扱いについて、世話人に指導した。

・自然災害時の町指定緊急避難場所までの移動訓練は、９月２４日に実施した。

【さくら】

実施日	訓練種別	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	避難時間
5/１４	部分	19:00~19:20	火災	食　堂	玄関前	１分５０秒
9/２４	部分	17:00~17:20	火災	玄　関	玄関前	１分２５秒

【あやめ】

実施日	訓練種別	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	避難時間
5/１４	部分	17:00~17:20	地震	震度６	玄関前	２分１６秒
9/２４	部分	19:00~19:20	火災	食　堂	玄関前	２分３８秒

【すみれ】

実施日	訓練種別	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	避難時間
5/１４	部分	17:00~17:20	火災	食　堂	玄関前	１分０３秒
9/２４	部分	18:00~18:20	火災	玄　関	玄関前	１分１２秒

（イ）令和４年度への課題

・宿直員の方の避難訓練が行われていないため、夜間での訓練の実施

・聴覚障害（補聴器使用等）のある利用者への対応、歩行障害（肢体不自由等）のある利用者への対応

・非常時に窓から脱出する際の方法等

・自然災害時の町指定緊急避難場所までの移動訓練の結果を踏まえて、状況に応じて実施

・非常時の防災グッズの整備

エ　グループホームこすもす（外部サービス利用型）

（ア）実施状況

・利用者に対し、点呼時返事を大きくするように指導を行った。

・「おはしも」の徹底（押さない・走らない・しゃべらない・もどらない）をした。

・職員に対し、普段一人勤務のため、第一優先は「人命」であることを再確認した。

・避難する際に行うべき機器の取り扱いについて、世話人に指導した。

・自然災害時の町指定緊急避難場所までの移動訓練は、９月２４日に実施した。

実施日	訓練種別	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	避難時間
5/１４	部分	17:30~17:50	火災	Ｂ棟　洗面台	玄関前	１分２４秒
9/２４	部分	18:30~18:45	火災	食　堂	玄関前	１分５７秒

（イ）令和４年度への課題

・聴覚障害のある利用者への伝達方法の検討

・自然災害時の町指定緊急避難場所までの移動訓練の結果を踏まえて、状況に応じて実施

7　広　報

（１）広報誌「阿闍羅」（相馬良子、山川裕紀子）

ア　掲載内容

（ア）第２０号　　令和３年　７月３０日　３２３部発行

１面　しいたけ作業の充実」に向けて
～㈱ひろさきアップルパワー様からの寄付をうけて～
理事長　秋元 広光
春の叙勲「瑞宝双光章」授章おめでとうございます
施設長　白石 安英

２面　厨房紹介「安全・安心でおいしい給食を目指しています！」
支援課長　笹田 和夫
令和二年度スキルアップ研修「保護者との連携はどうあるべきか」
施設長　白石 安英
ワークキャンパス大鰐活動報告　　事務員　相馬 良子

３面　令和２年度福祉農園等支援事業の報告
支援課長　笹田 和夫

４面　令和２年度決算報告　　事務課長　三上 拓雄
障害に関する相談窓口　　支援課長　田中 大生

（イ）第２１号　　令和２年１２月２９日　３２１部発行

１面　「新型コロナウイルス」と向き合って
～感染予防のために関係者全員が一致協力～
理事長　秋元 広光
ジョジョハウス開始！　　職業指導員　金枝 友和

２面　新商品「粉しいたけ」の販売開始
～令和３年度福祉農園等支援事業～　支援課長　笹田 和夫
OUTPUT　EXHIBITION2021　アウトプット展

３面　寄付金を頂きました！
「第２回スキルアップ研修会」を終えて
～車椅子利用者に対する介助方法について～
施設長　白石 安英

４面　福祉に関する地域事業のお知らせ
農福連携マルシェ２０２１
教職員免許取得者の介護等実習受入れ
障害に関する相談窓口

イ　令和４年度への課題

令和３年度の取り組みである、それぞれの利用者の取り組みにスポットをあて、行事や利用者の創作活動を紹介した。利用者の作業風景や、いつも食べている給食を作っている風景、職員が受けている研修の様子を記事にした。次年度も、様々な内容で施設の取り組みを紹介していきたい。

（２）ホームページ（山口美香、山中司、鎌田健司）

ア　内容

（ア）更新

２０２１年９月　「農福連携マルシェ２０２１」を掲載した。

イ　令和４年度への課題

毎年度更新が必要とされる。

広報「阿闍羅」が発行されたら、ホームページも忘れず更新する。

タイムリーに情報を更新するためにも、広報担当とも連携をとり、以前より課題としてあげられている誰でも更新できる育成が必要である。ワークキャンパス大鰐とワークショップ大鰐の職員に、研修の実施が必要である。

（３）福祉サービス広報（田中大生）

ア　内容

令和２年度に作成した「誰にでも分かりやすいように内容や写真・図・絵を使用した理念や基本方針、実施する福祉サービスの内容や事業所の特性等を紹介する資料」の設置状況を令和３年度に確認、追加した。設置場所は、大鰐町役場、大鰐町総合福祉センター、大鰐町中央公民館の３カ所。

イ　令和４年度への課題

事業所紹介資料内容の見直しを行い、新たに作成し直し下記３カ所に設置する。

（１）大鰐町役場

（２）大鰐町総合福祉センター

（３）大鰐町中央公民館

（４）その他の広報活動（山内彩子、幸山稚子）

ア　内容

（ア）大鰐町文化協会の総会等への出席

４月２３日：文化協会　総会　　大鰐町中央公民館

８月１１日：文化協会　理事会　　大鰐町中央公民館(中止)

１０月２６日：文化協会　理事会　　大鰐町中央公民館

（イ）大鰐町民文化祭への参加

１１月２日～３日まで美術展参加。

（ウ）地域のまつりなどへの参加

１１月１６日～１２月１２日まで大鰐町中央児童館主催のみんなの作品展に参加。

イ　令和４年度への課題

令和３年度は、新型コロナウイルス感染症の流行のため、地域との交流も感染対策を講じての中、縮小傾向での参加になった。

令和４年度も町民文化祭美術展に出展するための作品作りをおこなうが、感染状況に左右されるため、開催されるかどうか不明。また、開催時には展示内容に工夫をし、施設の活動について地域に知ってもらう機会につなげたい。

８　会　議

（１）連絡調整会議（田中大生）

実施月	開催日	会議内容	構成員
４月	４月　８日（木）	（ア）各施設間の情報共有 （イ）法人施設事業の方針の検討 （ウ）事業の進捗状況確認 （エ）行事等確認と日程調整 （オ）福祉サービス自己評価 （カ）福祉施策等通知の共有 （キ）規程や様式、マニュアル等の新規作成および改善 （ク）新規採用者育成計画並びに人材育成計画の検討・作成・検証 （ケ）その他協議調整が必要な事項	施設長 課　長 係　長 主　任 計９名
５月	５月　６日（木）		
６月	６月１０日（木）		
７月	７月　８日（木）		
８月	８月１２日（木）		
９月	９月　９日（木）		
１０月	１０月１４日（木）		
１１月	１１月１１日（木）		
１２月	１２月　９日（木）		
１月	１月１３日（木）		
２月	２月１０日（木）		
３月	３月１０日（木）		

（２）事業会議（山内彩子、中平恵美）

実施月	開催日	会議内容	構成員
４月	４月１５日（木）	（ア）次月の各業務予定報告 （イ）収支報告 （ウ）行事計画の立案検討 （エ）送迎に関すること （オ）ＧＨに関すること （カ）安全巡視の報告 （キ）連絡調整会議での調整事項について報告および提案 （ク）新規採用者育成計画並びに人材育成計画公表・説明 （ケ）共同受注窓口の納品配達、新規開拓、出店等に関する予定・報告・検討 （コ）その他	理事長 法人職員（非常勤を除く） 計１９名
５月	５月２０日（木）		
６月	６月１７日（木）		
７月	７月１５日（木）		
８月	８月１９日（木）		
９月	９月１６日（木）		
１０月	１０月２１日（木）		
１１月	１１月１８日（木）		
１２月	１２月１６日（木）		
１月	１月２０日（木）		
２月	２月１７日（木）		
３月	３月１７日（火）		

（３）給食会議（山口美香）

ア　内　容

（ア）給食業務、内容の協議については、事業会議で発表し、皆さんからご意見をいただき実施するように検討している。

（イ）・（ウ）嗜好調査の検討、調理・味付けの工夫については、検食日誌や残食を元に調理員と一緒に話し合い検討・実施した。

（エ）その他、利用者の食に関係することは、事業会議、ケース会議等で話し合い検討し調整した。

イ　実施日と記録

※　事業会議に同じ

ウ　実施場所と時間

※　事業会議に同じ

（４）ケース会議

ア　ワークキャンパス大鰐（中畑幸）

開催日	構成員	会議内容
４月１４日（水）	全職員	めだかの会報告、利用者行事について、支援計画　他
５月１２日（水）		ケースカンファレンス、ヒヤリハット　他
６月　２日（水）		めだかの会報告、ケースカンファレンス、ヒヤリハット　他
７月　７日（水）		ケースカンファレンス、利用者行事について、ヒヤリハット　他
８月　４日（水）		めだかの会報告、ケースカンファレンス、利用者行事について、ヒヤリハット　他
９月　３日（金）		ケースカンファレンス、ヒヤリハット、利用者行事について　他
１０月　６日（水）		めだかの会報、告利用者行事について、モニタリング、個別能力評価、支援計画　他
１１月　２日（火）		三者面談報告、支援計画、ヒヤリハット、利用者行事　他
１２月　１日（水）		めだかの会報告、ケースカンファレンス、利用者行事について　他
１月　５日（水）		ケースカンファレンス、研修報告、事業計画作成について、工賃評価、　他
２月　２日（水）		めだかの会報告、ケースカンファレンス、工賃評価について　他
３月１５日（火）		工賃評価について、三者面談について　他
３月２２日（火）		モニタリング・支援計画について、利用者行事、　他

イ　ワークショップ大鰐（中嶋綾子）

会議名	開催日	会議内容
第　１回 第　２回 第　３回 第　４回 第　５回 第　６回 第　７回 第　８回 第　９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回	４月２２日（木） ５月１１日（火） ６月　３日（木） ７月　１日（木） ７月２９日（木） ９月　６日（月） １０月　７日（木） １１月　９日（火） １２月　７日（火） １月　６日（木） ２月　３日（木） ３月　３日（木） ３月２９日（火）	（ア）職員の資質向上に関すること ・研修報告　・職員研修 ・ヒヤリハット事例検討 （イ）利用者の個別支援に関すること ・支援計画書、モニタリング記録表 ・ケースカンファレンス ・家庭訪問記録、通院報告 ・作業能力評価　・三者面談内容報告 （ウ）行事・作業に関すること ・行事計画 ・作業予定

（構成員）
ワークショップ大鰐職員（利用者情報共有は非常勤含む）
計１３名（内非常勤３名）

（５）グループホーム関係者会議（田中大生）

実施回	開催日	会議内容
第１回	５月２０日（木）	（ア）業務内容全般の確認 （イ）利用者支援方法伝達と支援後確認 （ウ）利用状況確認 （エ）法人の方針や必要な通知等の周知 （オ）規程、様式、マニュアル等の周知 （カ）食事等の管理と栄養等指導 （キ）世話人、宿直員、生活支援員、サビ管、管理者、栄養士等の顔合わせ （ク）ミニ研修並びにグループワーク （ケ）その他
第２回	７月１５日（木）	
第３回	９月１６日（木）	
第４回	１１月１８日（木）	
第５回	１月２０日（木）	
第６回	３月１７日（木）	

（構成員）
施設長、課長、サビ管、主任、栄養士、世話人、宿直員
計２３名

９　人材育成計画（研修計画）

（１）評価・面談（田中大生）

ア　評価

職員育成・評価基準の「キャリアパス要件」に基づき、「職員育成・評価基準シート」を使用して行った。（再雇用および非常勤を除く）

イ　面談

（ア）目標設定の助言

実 施 日　　令和３年５月

被面談者　　ワークキャンパス大鰐　　４名

　　ワークショップ大鰐　　５名

面 談 者　　施設長、課長

（イ）目標達成の評価

実 施 日　　令和４年３月

被面談者　　ワークキャンパス大鰐　　４名

　　ワークショップ大鰐　　５名

面 談 者　　理事長、施設長、課長

（２）求められる能力（田中大生）

各職域とキャリア階層ごとに「人材育成年間スケジュール」を下記のとおり作成、周知した。ただし、対象者が０名については作成していない。

・作成　　令和３年　４月　８日　連絡調整会議

・周知　　令和３年　４月１５日　事業会議

作成内容	対象者	期間
一般職　初級	０名	令和３年４月１日～令和４年３月３１日
一般職　中級	７名	
一般職　上級	３名	
指導職　乙	１名	
指導職　甲	１名	
経理・事務　初級	０名	
経理・事務　中級	１名	
経理・事務　上級	１名	
経理・事務　乙	１名	
経理・事務　甲	０名	
調理員　乙	１名	
調理員　甲	０名	

（３）新規採用者研修（佐藤直幸）

ア　評価

今年度は有期職員合計３名の採用者がおり、６月１名、１２月２名の新規採用者研修を行った。日数はそれぞれ３日間を予定し、予定どおり実行することができた。

イ　研修実施日時及び実施内容

（ア）有期職員

実施年月日	内容	担当職員
令和３年６月１日	事務連絡 法人理念の説明 前年度事業計画説明 今年度事業計画説明 倫理綱領・職員行動規範の説明 職員育成・評価基準の説明（キャリアパス）	佐藤直幸
令和３年６月２日	障害　基本の「き」 知的障がいとは リスクマネジメント（ヒヤリハットの法則） 障害者虐待防止について	佐藤直幸
令和３年６月３日	ビジネスマナー 全施設見学	佐藤直幸 笹田和夫

実施年月日	内容	担当職員
令和３年１２月６日	事務連絡 法人理念の説明 前年度事業計画説明 今年度事業計画説明 倫理綱領・職員行動規範の説明 職員育成・評価基準の説明（キャリアパス）	佐藤直幸
令和３年１２月７日	障害　基本の「き」 リスクマネジメント（ヒヤリハットの法則） ケース記録の書き方 障害者虐待防止について	田中大生
令和３年１２月８日	ビジネスマナー 全施設見学	佐藤直幸 笹田和夫

（４）研修参加（実施）等状況（笹田和夫）

【県社協・保健大学　主催研修】

実施日			研修名	場所	参加者
8月7日			社会福祉トップセミナー	青森県立保健大学	田中大生
11月19日			コーチングセミナー	アスパム	中平恵美
11月29日			離職防止環境整備研修	オンライン	田中大生
12月7日			メンタルヘルス研修	オンライン	笹田和夫　中平恵美
1月24日	～	2月25日	障害者虐待 防止マネジャー 研修会	オンデマンド	田中大生

【知的障害者福祉協会　主催研修】

実施日			研修名	場所	参加者
4月16日			事故防止・危険予知（KYT）トレーニング	オンライン	中嶋綾子
6月29日			風水害時のリスクマネジメント	オンライン	田中大生
9月30日	～	10月1日	東北地区知的障害者福祉協会 専門研修	オンライン	金枝友和
10月6日	～	10月7日	全国知的障害関係施設長等会議	オンライン	佐藤直幸、白石安英
10月14日			ハラスメント防止研修	オンライン	笹田和夫
11月1日	～	11月2日	東北フォーラム	オンライン	幸山稚子
12月6日	～	12月17日	全国生産活動・就労支援部会職員研修会　中国・四国大会in香川	オンデマンド配信	佐藤直幸、鎌田健司
2月10日			手をつなぐ育成会　合同研修	オンライン	田中大生
3月8日			人権倫理委員会研修会（再）	オンデマンド配信	對馬真希子

【青森県・市町村　主催】

実施日			研修名	場所	参加者
9月10日	～	9月24日	相談支援従事者初任者研修（講義部分）	オンデマンド配信（全11時間）	鎌田健司
9月30日	～	10月1日	東北地区知的障害者福祉協会専門研修	オンライン	金枝友和
11月26日			苦情解決関係者等研修会	東奥日報新町ビル	中嶋綾子
12月18日	～	12月19日	サービス管理責任者等更新研修	アスパム	植田善久

【阿闍羅会　主催研修】

実施日			研修名	場所	参加者
4月28日			職員スキルアップ研修　第1回	ワークショップ大鰐	19名
5月20日			メンタルヘルス研修（GH・事業 会議）	ワークショップ大鰐	28名
5月24日			メンタルヘルス研修（パート職員）	ワークキャンパス大鰐、ワークショップ大鰐	8名
5月27日			第1回　内部研修	ワークショップ大鰐	20名
6月2日	～	6月3日	新採用研修	ワークキャンパス大鰐	1名
6月19日			自動車安全運転研修	ワークショップ大鰐	33名
6月24日			第2回　内部研修	ワークショップ大鰐	17名
7月21日			第3回　内部研修	ワークショップ大鰐	15名
8月26日			第4回　内部研修	ワークショップ大鰐	14名

9月30日		第5回　内部研修	ワークショップ大鰐	11名
10月28日		第6回　内部研修	ワークショップ大鰐	13名
11月25日		職員スキルアップ研修　第2回	ワークキャンパス大鰐　多目的ホール	23名
12月23日		第7回　内部研修	ワークショップ大鰐	14名
1月8日		虐待防止研修	ワークショップ大鰐	25名
2月8日		第8回　内部研修	ワークショップ大鰐	17名

【その他研修】

実施日			研修名	場所	参加者
5月12日			工賃向上フォーラム（日本財団）	鳥取県（オンライン）	植田善久、山中司
5月19日			安全運転管理者講習	大鰐町総合福祉センター	笹田和夫
8月19日	～	8月20日	甲種防火管理新規講習	黒石消防署	山中司
12月17日			中小企業家同友会津軽支部例会	鰐come	佐藤直幸、田中大生
4月6日			医療的ケア教員講習会	オンライン	中平恵美、中畑幸

【総会・会議　等】

実施日			会議名	場所	出席者
－			鰐come産直の会　総会	~~鰐come~~	書面議決
4月4日			三ツ目内区会通常総会	三ツ目内生活改善センター	笹田和夫
4月20日			大鰐温泉観光協会　総会	大鰐町中央公民館	田中大生
4月22日			つつじまつり　出店説明会	大鰐町中央公民館	不参加
4月23日			大鰐町文化協会　総会	大鰐町中央公民館	山内彩子、幸山稚子
5月6日			まるごと大鰐商人の会　会議	日景食堂	田中大生
5月17日			大鰐町農業再生協議会　幹事会	大鰐町役場	田中大生
－			大鰐町農業再生協議会　通常総会	－	書面議決
5月19日			黒石地区安全運転管理者協会役員会	大鰐交番	笹田和夫
－			黒石地区大鰐支部安全運転管理者協会総会	－	書面議決
6月25日			大鰐町社会福祉協議会　評議員会	大鰐町総合福祉センター	白石安英
－			青森県知的障害者福祉協会　総会	－	書面議決
7月21日			働き過ぎ防止調査	弘前労働基準監督署	三上拓雄
8月11日			大鰐町文化協会　理事会	大鰐町中央公民館	山内彩子、幸山稚子、田中大生
8月22日			まるごと大鰐商人の会　会議	日景食堂	欠席
9月16日			農福連携推進会議	つがる弘前農業協同組合	白石安英、田中大生
10月26日			大鰐町文化協会　理事会	大鰐町中央公民館	幸山稚子
11月1日			大鰐町子ども子育て会議	大鰐町役場	田中大生
11月15日			中南地域農福連携部会　中間検討会	ココア平川、津軽みらい農業協同組合本所	白石安英、田中大生
12月3日			地域共生社会の実現に向けた勉強会	九十九森公民館	佐藤直幸、田中大生
12月5日			大鰐6B町内総会	三ツ目内生活改善センター	笹田和夫
2月22日			相談支援包括化推進会議	オンライン	田中大生
3月8日			中南地域農福連携推進連絡会議	－	書面開催
3月24日			大鰐町社会福祉協議会　評議員会	大鰐町総合福祉センター	白石安英
3月25日			鰐come産直の会　役員会	鰐come	田中大生

１０　苦情解決

（１）ワークキャンパス大鰐（笹田和夫）

ア　施設担当職員

苦情解決責任者　　施設長　　佐藤直幸

苦情受付担当者　　支援係長　笹田和夫

イ　第三者委員

ひろさき地域福祉ネットワーク・オンブズマン委員会（ひろネット）

訪問委員　寺口美代子、清藤紀子　（２名）

ウ　訪問記録

（ア）訪問日、訪問委員、面談状況と問題点

訪問日	委員名	状況と問題点
４／		新型コロナウルス対策のため休止
５／		新型コロナウルス対策のため休止
６／２５	寺口、清藤	８名の利用者と面談　特に問題なし
７／２８	寺口、清藤	６名の利用者と面談　特に問題なし
８／２５	寺口、清藤	５名の利用者と面談　特に問題なし
９／２９	寺口、清藤	６名の利用者と面談　特に問題なし
１０／２９	寺口、清藤	６名の利用者と面談　特に問題なし
１１／２６	寺口、清藤	６名の利用者と面談　特に問題なし
１２／２３	寺口、清藤	８名の利用者と面談　特に問題なし
１／		新型コロナウルス対策のため休止
２／		新型コロナウルス対策のため休止
３／		新型コロナウルス対策のため休止

（イ）訪問回合計、面談者延べ人数

訪問回数：合計７回　　面談者数：延べ４５名

（ウ）実施状況と令和４年度への課題

利用者からの苦情があった場合は適切な対応で、利用者個人の権利を擁護すると共に、利用者が福祉サービスを適切に利用できるように支援していくことを目的としているが、特に大きな苦情相談はなかった。

今後、コロナの状況を見ながらオンブズマンの面談を進め、面談が出来る状況次第で利用者の面談人数を多目にするなど運用を工夫して面談を行っていきたい。

（２）ワークショップ大鰐（中嶋綾子）

ア　施設担当職員

苦情解決責任者　　施設長　白石安英

苦情受付担当者　　主　任　中嶋綾子

イ　第三者委員

ひろさき地域福祉ネットワーク・オンブズマン委員会（ひろネット）

訪問委員　工藤昌子、寺口美代子（２名）

ウ　訪問記録

（ア）訪問日、訪問委員、面談状況と問題点

訪問日（施設担当者）	訪問委員名	面談状況と問題点
７月２６日（白石安英）	工藤、寺口	７名と面談、特に問題なし

８月２３日（白石安英）	工藤、寺口	７名と面談、特に問題なし
１０月２６日（白石安英）	工藤、寺口	６名と面談、特に問題なし
１１月２４日（白石安英）	工藤、寺口	７名と面談、特に問題なし
１２月２２日（白石安英）	工藤、寺口	６名と面談、特に問題なし

（イ）訪問回合計、面談者延べ人数

訪問回数：合計５回　　面談者数：延べ３４名

（ウ）実施状況と令和４年度への課題

施設訪問委員は、コロナ感染予防を考慮しつつ訪問日調整の連絡を密にし、不定期ではあるが利用者及び施設担当者と面談し、日常的な状況把握と意見聴取を行った。苦情等の申し出はなかった。

次年度の課題として今年度同様コロナ収束の兆しが見えなければその時の状況で訪問回数、１回の面談人数の調整が必要と思われる。

（３）利用者満足度調査（植田善久）

ア　実施概要

（ア）ワークキャンパス大鰐

配布日　　令和３年９月１７日
集計日　　令和３年９月３０日
配布数　　２９名
回収数　　２８名
回収率　　９６．５５％

（イ）ワークショップ大鰐

配布日　　令和３年９月１７日
集計日　　令和３年９月３０日
配布数　　３４名
回収数　　３１名
回収率　　９１．１７％

イ　総括

令和２年度から実施した本調査は今回２回目である。調査内容は、昨年と同じ『職員の対応について』、『事業所サービスについて』、『作業・送迎や行事について』の各項目を実施した。結果は概ね肯定的な回答となった。今回のアンケート結果をもとに、よりよいサービスを提供できるよう日頃の支援等に生かしたい。

課題は、質問内容は変えずに、より分かりやすく、回答しやすいアンケート内容にする必要がある。令和４年度の実施にあたっては早めにその準備を行いたい。

（４）苦情解決の仕組みをわかりやすくした掲示物と資料の作成、配布、説明（植田善久）

実施時期を７月としていたが、資料の作成が遅れ９月に実施した。

玄関にご意見箱を設置しているが、利用者からの申し出はなかった。

１１　地域生活支援　（笹田和夫・田中大生）

（１）グループホームさくら（介護サービス包括型）

ア　居宅

居宅数　　３棟

居宅名　　「さくら」「すみれ」「あやめ」

イ　員数

定員　１８名（内訳　さくら：６名、すみれ：５名、あやめ：７名）

現員　１６名（内訳　さくら：５名、すみれ：５名、あやめ：６名）

※　令和４年３月３１日現在

区分　区分なし：１名、区分１：０名、区分２：５名、区分３：６名

区分４：３名、区分５：１名、区分６：０名

利用事業

生活介護：１名、就労継続支援Ｂ型：１４名、利用事業なし：１名

ウ　食事

メニューについては栄養面を配慮し、入居者の意見を聞きながら作った。また、健康面に留意して、好き嫌いなく何でも食べられるよう工夫した。

エ　地域との関わり

令和３年度はコロナ禍にあって、地域との関わりが少なかった。

避難確保計画に沿って、避難訓練等を実施した。

オ　次年度への課題

障害や生活能力が多様であり、個別の対応が必要である。支援員、世話人、宿直員による支援の他、利用者同士で助け合いながら生活できるよう支援したい。

（２）グループホームこすもす（外部サービス利用型）

ア　居宅

居宅数　　１棟

居宅名　　「こすもす」

イ　員数

定員　　８名

現員　　８名

※　令和４年３月３１日現在

区分　区分なし：２名、区分１：１名、区分２：３名、区分３：２名

区分４：０名、区分５：０名、区分６：０名

利用事業

生活介護：０名、就労継続支援Ｂ型：７名、一般就労：１名

ウ　食事

メニューについては栄養面を配慮し、入居者の意見を聞きながら作った。また、健康面に留意して、好き嫌いなく何でも食べられるよう工夫した。

エ　地域との関わり

町内の理髪店に協力を求め数名の定期的な理髪を依頼。（依頼先：美容室クロー

バー、理容やまざき）

避難確保計画に沿って避難訓練等を実施。

オ　次年度への課題

皆が協力的に生活しているが、令和３年度中に利用者間のトラブルが１件あり支援をした。令和４年度も引き続き見守りするとともに、個別にグループホームの生活ルールを守って生活できるよう支援したい。

１２　共同受注窓口

（１）「津軽地区障害者就労継続支援事業所共同受注窓口ふらわーずぶるーむ」

（山川裕紀子）

ア　実施概要

令和３年度は、令和２年度同様新型コロナウイルス感染症の影響で催事・出店など中止になることが多かった。昨年度売り上げが大きく下回ったが更に下回っている。催事等への参加回数も１０月に軽トラ市１回、商人市２日間のみの参加にとどまっている。

例年、さくら野百貨店弘前店で開催している「農福連携マルシェ」は、新型コロナウイルス感染症拡大により、地域内のほとんどのイベントが中止されていたこともあり、対面での催事を断念した。代替案として、初の試みであるカタログ販売を実施した。

ワークキャンパス大鰐、ワークショップ大鰐の両施設の職員で催事に協力することで、法人としての体制が確立している。

イ　催事売上

月	売上	月	売上
４月	３，１００円	１０月	１２，８８５円
５月	３，５００円	１１月	４，２００円
６月	２，７２５円	１２月	３，８５０円
７月	２，８２５円	１月	３，３２５円
８月	２，４５０円	２月	４，１２５円
９月	２，７００円	３月	４，７４０円
小計	１７，３００円	小計	３３，１２５円
合計			５０，４２５円

ウ　参加催事

月日	催事名	出店担当
９月２５日（土） ～ １１月３０日（火）	農福連携マルシェ（カタログ開催） 農福連携マルシェ（カタログ開催）	
１０月　２日（土）	軽トラ市	笹田

１０月１６日（土）	商人市	笹田
１０月１７日（日）	商人市	鎌田

※　計４回　延べ６５日間

（２）中南障害者工賃アップ協議会（白石安英）

中南障害者工賃アップ協議会は、新型コロナ感染対策のため実質的な活動は実施できなかった。次年度については、感染状況を見ながら計画することとする。

１３　虐待防止委員会（白石安英）

（１）実施日時

令和４年１月１９日（水）・・・新型コロナウイルス感染対策のため委員参集による委員会は実施しなかった。案件資料配布により代替した。

（２）虐待防止委員会委員一覧

役職名	氏　　名	所　属　等
委 員 長	秋元　広光	理事長
副委員長	佐藤　眞一	業務執行状況監査役
委　　員	浅利　金利	保護者（椎の実会会長；キャンパス）
	三浦　美生	保護者（虹の会会長；ショップ）
	工藤　昌子	第三者委員訪問委員（オンブズマン）
	寺口美代子	第三者委員訪問委員（オンブズマン）
	佐藤　直幸	ワークキャンパス大鰐施設長
	白石　安英	ワークショップ大鰐施設長

（３）提案内容

ア　委員会の名称変更について

現在「虐待防止委員会」という名称にしているが、令和４年４月より人権擁護に関する委員会について法人内に位置付ける必要がある。このことに伴い、新たに人権擁護に関する委員会を組織するのではなく、人権擁護という性格から、現行の虐待防止委員会に内容を含めることにより対応したい。

そのため、委員の構成はそのままにして名称を「人権擁護・虐待防止委員会」に変更したい。了承いただければ、理事会・評議員会に報告する。

イ　案件（１）規定及びマニュアルの名称の変更について

委員会の名称の変更に伴い、規定及びマニュアルの名称も変更する。

ウ　案件（２）報告

（ア）研修状況について

①　法人外研修（予定）；虐待防止・権利擁護研修

a「障害者虐待防止マネージャー研修会」
令和４月１月２４日（月）～２月２５日（オンデマンド配信）
b「虐待等困難事例ネットワーク研修会」
令和４年１月２１日（金）（オンライン開催）
② 法人内研修；全職員対象
令和４年１月８日（土）１４：００～
人権擁護・虐待防止研修　「虐待を防ぐためにできること」
（講師；青森県社会福祉士会　宇佐美大輔　氏）
（イ）チェックリストの実施状況
① 早期発見チェックリスト・・・・年３回実施
② 職員セルフチェックリスト・・・年１回実施（施設長提出）

エ　案件（３）チェックリスト及びヒヤリ・ハットについて

チェックリスト及びヒヤリ・ハットについては、虐待に関連するものは報告されなかった。

ヒヤリ・ハットの記録については、キャンパスは確実に実施された。ショップでは、問題があった場合に日常の打ち合わせや会議等で問題の共有と課題・解決方法の確認はなされていたが、ヒヤリ・ハットとしての記録に残されていないため、今後は確実に記録に残すようにする。

オ　利用者満足度調査について

「利用者満足度調査」は、全利用者を対象に９月に実施した。人権侵害及び虐待に関しての問題は提起されなかった。

「苦情解決のしくみ」については、秋の三者面談において保護者に配布・説明し周知を図った。

カ　令和４年度の予定

令和５年１月１８日（水）実施の予定

１４　安全巡視（佐藤直幸）

（１）実施日及び実施担当者

実施年月日	担当者
令和３年　６月３０日	笹田和夫・田中大生
令和３年１０月　６日	金枝友和・山川裕紀子
令和３年１２月２２日	中畑幸・幸山稚子
令和４年　４月１２日	植田善久・中嶋綾子

（２）実施内容

３ヶ月に１回、キャンパス・ショップより各１名ずつ選出し実施。

法人内事業所全部を訪問、注意箇所を点検し事業会議で報告し検討した。

（３）令和４年度への課題

各事業所で環境維持及び建物の老朽化による破損箇所やリフォームが必要な部分が多々みられた。改善策として計画されたが、まだ実施できていない箇所もあることからなるべく早めに実施できるよう心がけていきたい。また、予定実施時期が大幅に遅れた部分もあったため予定時期を守るように促していきたい。

１５　地域交流

（１）地域との交流（笹田和夫）

①　大鰐町民生児童委員協議会

協議会会長さんと連絡を取りながら、意見交換会の実施を模索してきたが、新型コロナ感染の影響で、令和３年度は実施できなかった。

②　大鰐町社会福祉協議会

評議員会への出席・ふれあい広場への参加（令和３年度は、作品展示のための作品提供）をした。

③　町内加盟地域団体

おおわに文化祭美術展への参加協力、まるごと大鰐商人の会（会議会議出席）、鰐 come 産直の会および鰐 come 業者協力会への商品納入と協力（会議出席）、中小企業家同友会津軽支部例会等への出席をした。

④　大鰐町

大鰐町地域自立支援協議会、大鰐町子ども・子育て会議出席、大鰐町農業再生協議会へ委員として出席した。

（２）学生やボランティア等の受け入れ（笹田和夫、田中大生）

①　大鰐中学校福祉体験学習（１年生徒）

今年度はなし。

②　特別支援学校からの現場実習生

以下の実習生を受け入れた。

＜ワークキャンパス大鰐＞

黒石養護学校	高等部３年	女子	６月（１０日間）
弘前第一養護学校高等部	高等部３年	男子	６月（１０日間）
弘前第二養護学校	高等部２年	男子	６・７月（３日間）

＜ワークショップ大鰐＞

黒石養護学校	高等部３年	男子	６月（１０日間）
			１０・１１月（９日間）
黒石養護学校	高等部３年	男子	１０・１１月（９日間）
弘前第二養護学校	高等部２年	男子	１２月（３日間）

③　教員免許取得者の介護等体験

令和３年度は、弘前大学教育学部から１名（９月に５日間）、柴田学園大学から２名（８月～９月にそれぞれ５日間）実施した。ワークショップ大鰐で担当。リサ

イクルやしいたけの作業の他、昼食時間などにおいて、できるだけ利用者とふれあう機会を多く設けた。

（３）情報の収集と公開（田中大生）

ア　利用者・保護者・地域住民に対しＨＰ上で情報を公開しているが、令和３年度は最新の情報に更新できずにいた。令和４年度からは新しいホームページ作成システムに変わることを機会にホームページ更新のための職員研修を実施することで、タイムリーに情報を公開できるようにしたい。

イ　福祉サービス広報の一つとして、令和２年度に大鰐町役場障害福祉課、大鰐町総合福祉センター、大鰐町中央公民館確認の３カ所に設置した「誰にでもわかりやすい内容のパンフレット」を、令和３年度、設置状況の確認をした。

　令和４年度は、その内容の見直しを図る。

ウ　社会福祉法人は地域に必要とされる組織でなくてはならないということを再認識し、令和３年度はさらに運営の透明性を高めるため、地域に対し法人の理念やビジョンを明示・説明するためのパンフレットを作成し、大鰐町役場障害福祉課、大鰐町総合福祉センター、大鰐町中央公民館確認の３カ所に設置することで、法人の存在意義や役割を明確にするようにした。令和４年度は、その設置状況を確認する。

（４）福祉避難所（佐藤直幸）

　今年度は利用されることはなかった。いつ災害等が起こるのかわからないので、福祉避難所としての機能を維持できるように努めていきたい。

（５）障害に関する相談窓口（田中大生）

　令和３年度は、平川市より１件の相談があった。内容はグループホームを探しているという相談だったが、話を伺うと主訴は金銭面の悩みであった。山郷館サポートセンターくろいしへ繋いでいる。